

2019年8月19日

市民向けシンポジウム
「がんの痛みは正しい知識で取る～医療用麻薬はどんな薬でどう使われるのか?～」
の広報活動協力をお願い

厚生労働省 医薬・生活衛生局 監視指導・麻薬対策課長 田中 徹
一般社団法人 日本緩和医療薬学会 代表理事 塩川 満

謹啓

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より厚生労働行政及び学会活動に御支援、御協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。

この度、昨年度に引き続き、一般の市民の方々を主な対象に、がんの痛みの緩和のために医療用麻薬の適正使用を推進することを目指した講習会を厚生労働省・日本緩和医療薬学会共催で開催することになりました。

がんの痛みの緩和に関しては、昨年12月に発表された国立がん研究センターの全国調査において、がんの患者の御遺族の方を対象に患者さんが「痛みが少なく過ごせたか」を尋ねたところ、御遺族の約3割が「がんの患者が、亡くなる1か月前に、体の痛みや精神的苦痛を感じていた。」旨を回答されたことが報告されています。

がんの痛みの緩和は、がんの患者さんやその家族の方々の負担軽減のためにとっても重要なことであり、医療用麻薬以外の鎮痛薬では鎮痛できない痛みの緩和には、医師の処方及び薬剤師の調剤の下、医療用麻薬が適切に使用されることが期待されます。しかしながら、患者さんや御家族などの中には、医療用麻薬に対して漠然とした不安や、違法薬物と同じものだとの誤解をお持ちの方もいらっしゃいます。このような不安や誤解が患者さんやその御家族に強いままで、十分な痛みの治療の妨げになることがあります。

本シンポジウムは、市民の方々に、医療用麻薬の必要性や安全性に関する正しい知識を理解していただき、医療用麻薬に対する不安や誤解を解いていただくことを目指して、同封のポスターや広報紙に記載の日程・会場・プログラムにより開催する予定です。

つきましては、本シンポジウムにより多くの方の御参加をいただきますよう、同封のポスター及び広報紙を貴会ご関係の医療機関やその近隣の施設におきまして掲示あるいは配布いただきたく、貴会の御協力をお願い申し上げます。

末筆ながら、貴会の今後益々の御発展を祈念いたしますとともに、今後とも変わらぬ御支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

謹白